

# マルセイニュース 3月号

発行日 2015/3/24

株式会社 マルセイ  
浦河町東町うしお1丁目  
〒057-0005 TEL 0146-22-5123



## 道内トップクラス！浦河移住促進への取り組み

北海道新聞の移住促進の特集記事の中で、これまでに47世帯95人が移住し成果をあげている町として浦河町が紹介されました。北海道の移住促進事業「ちょっと暮らし」に参加し、短期長期どちらの体験移住も可能なくみを作ってきましたが、浦河町地域おこし協力隊メンバーのアイデアと行動力が加わり、パワーアップ！各種体験ツアーの企画や新刊書店「六畳書房」の开店、テレワーク事業実施に伴う交流促進などなど、テレビやラジオ、新聞や雑誌、そしてフェイスブックなどを通じて“浦河町”が全国で紹介される機会が増え、新たな移住促進へとつながっています。



「都会の方が良いと思っていたけど、田舎も悪くない」  
『生き方を考える集会』  
3月9日(月) 浦河第一中学校3年生の授業

卒業式を目前に控えた浦河第一中学校の3年生の授業『生き方を考える集会』で、(株)ユートラインの社長村下知宏さんから「田舎の仕事の可能性」という題の講話がありました。浦一中の先輩でもあり、浦河にUターンした村下さんのお話は生徒一人ひとりの心に響いたようです。素直でみずみずしい感想の中から、ほんの一部を紹介させていただきます。

「浦河にしかないオンリーワンのよさ、というものをちゃんと確認できた気がします。そのよさを忘れず、浦河がよりよい町になっていければと思います！」 「何も無い田舎にいるより、いろんなものがある都会に住みたいと思っていたが、地域の現状を知ったので、大人になったら自分も地域の仕事につきたいと思いました。」 「あせらないで、自分の夢を決めていこうと思った」 「自分の知らない浦河がたくさんあって驚いた。最近NHKでよくでてくるな〜って思った。その陰で村下さんとかやって浦河が有名になっていくんだなって思った。いろんな人と関わることは大切なんだと思った。」 「身近なことは気付けないんだな〜と思った。」 「浦河の可能性を信じ、自分もがんばってきたいです。」 「これから自分の進路に地方で何かをするという考えがなかったの、選択肢のひとつとして浦河で何かをするということが増えました。」 「チャレンジ」という言葉が、自分の中ではひびいた。」 「自分はまだ将来の夢が決まっていなかったの、今日の話を聞いて、少しホッと思いました。それとろんな生き方を学びました。」 「今日の話を聞いて、考えの幅が広がりました。」 「活性化のため、色々な人が頑張ってくれている町がわかりました。」 「自分の住んでいる町がこんなにすごいところだとは思ってませんでした。」

## 家の周りの汚れも気になるこの季節… 「春の片付け仕事」ご相談ください！

さあ！「暮らしのサポート事業」でマルセイがお役に立てるシーズンがやってきました。「庭にあるごみをなんとかしていただけますか？」「物置の中にあるものの片付けをお願いできますか？」はい！これからの季節ならではの、引っ越し後のごみ処分やお掃除もご相談下さい。



灯油配送の繁忙期が終了！  
\* 冬季のご利用ありがとうございました！

冬の灯油配送の忙しさもあっという間に終了！今年も春の訪れが早いようですね。大変な高値からスタートして急降下と、目まぐるしく価格が変動したこの冬でした。この冬もマルセイの灯油配送をご利用いただき感謝申し上げます。

一緒に仕事をしてきた大澤さんが亡くなって間もなく3カ月。この間、お客様からも、何度も声を掛けていただきました。ありがとうございます。野鳥観察が大好きだった大澤さんでした。会社の周りに飛来する色々な鳥について教えてもらって楽しかったのに、残念ながら、今ではそれもありません。

去年は、大澤さんとかくさんの片付け仕事をしました社長。この春の片付け仕事も、気田くんと一緒に頑張ります！

きつと、どこかでマルセイを見守っていてくれているでしょう。ね、大澤さん

とところで社長、自宅の庭の片付けも、よろしく頼みますよ〜♪

マックス



社長が大澤さんと一緒に仕事をした懐かしい写真です。春先は、庭木の片付け仕事も多かったなあー。

## 屋内設置のタンクも劣化します 90リットルタンク交換工事

「ストーブの燃えが悪い」「エラーサインが出てストーブが止まってしまった」と燃焼不良のご相談をいただきました。原因は、使用していた90リットル灯油タンクの内部劣化によるものでした。今月はいくつか、屋内設置のタンクを長期間使用していたお客様宅から燃焼不良のご相談があり、いずれもタンク交換をさせていただきました。



タンクからストーブまで送られる灯油配管をコンプレッサーでしているところです。いずれも、次の冬が来る前にご相談下さい。

左上の2枚の写真をご覧ください。90リットル灯油タンクの内部を写したのですが、経年使用で劣化したものと新品とでは、タンク底部分のちがいが一目瞭然です。灯りをつけて中をのぞきこまないで見えないタンク内部ですが、こんなに違いがあるなんて改めて驚きました。屋内設置のタンクでも、長い間使用していると、やっぱり劣化は進行するものですね。



屋内設置に多く利用されている90リットルタンク

このように、タンク内部の腐食が進行すると、サビや汚れが配管を通してストーブに送られ、燃焼不良の原因になります。今月はこのタイプの燃焼不良による相談を何軒かいただきました。中には、20年前後使用してきたタンクもあり、この機会にタンク交換をおすすめしました。屋内の90リットル灯油タンクを長年使用されているお宅の方は、ストーブの故障の予防のためにも次の冬までの間にタンク内部をチェックしてみして下さい。



## 進化するガステーブルをチェック！

高級ガステーブルをお客様が購入して下さいました！納品する前に、同じタイプのガステーブルを使い最新機能をみんなでチェック。「水なし両面焼きが便利！」とよろこんでいた頃からさらに魚焼きグリルはパワーアップ！焼き過ぎの失敗が少ない「自動焼き上げ機能」なども追加搭載されていました。グリル内が広いのにもびっくり。大きめの魚だって楽に焼けます^^

そうそう、揚げものは苦手で、全く作らなかつたマックスも「温度調節機能」の使い方を覚えてからは、ずいぶん手軽に揚げものをやるようになりました。料理本のレシピを見ながら、揚げ温度の温度設定をするだけ。温度調節に苦勞しないで上手に揚げものができるとのうれしい！いやはや、本当に便利な『便利機能』を覚えて、料理の腕が少しは上がったかな？



温度センサーが油の温度を自動調節してくれるので、揚げものや焼きものメニューが簡単でおいしく仕上がります。

**色々ある便利機能を上手に使いましょー！**

社長が毎日使っているのが、とても便利な「湯わかし機能」です。湯わかしボタンを押せば、沸騰後に電子音でお知らせしてくれます。しかも、数分間保温した後に自動消火してくれるのでとても安心。ついうっかり...という消し忘れがあつても安全です。マルセイの朝は、この機能を使って沸かしたお湯でいれたおいしいコーヒーからスタートします。

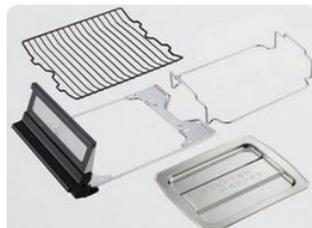


「湯わかし機能」を一番多く利用しているのは社長！



オートメニュー機能 グリルタイマー

魚を焼くのも、使い方を覚えるだけでずいぶん便利になっているので驚きました。



これは便利！誰もが苦手だと思うグリルのおそうじですが、ここまでばらせると、とっても洗いやすくなりましたね。



魚好きの人がよろこびそうなのが「らくグリル」。高さも広さもあるので、食材の取り出しもラクラクです。切身の魚はもちろん、大きめの干物も焼きナスのなすびだって丸ごと楽に焼けます。しかも、分解して洗えるのが便利です。汚れ落としもこれだと楽ですね。みんなが苦手なグリルのおそうじも、これだとOKかな？



交換設置後、新しいガステーブルの状態をチェックしている気田くんです。



汁受け皿も、グリルも、傷みがくるほど使い込まれていたガステーブル。火力も弱くなっていて、大変不便な状態で使用されていたようです。

さて、納品です。新しいガステーブルを使い始めたお客さまは、「炎の色もきれい！」と大喜び。何よりも、お掃除が楽なことには驚いていました。トップ部分がフラット(平ら)な上に、汁受け皿がなくなつた分もお掃除がラクラク。表面が「ハイガラス質」なので、「汚れがサツとふき取れるのです。当社では今まで何人か、便利なガステーブルをお母様や奥様へプレゼントされたお客様がいらっしゃいました♪毎日使うものだからこそ、とっても喜ばれます。

**お掃除も簡単！  
便利さにも大喜び！**



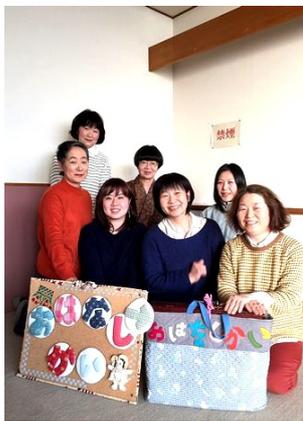
## まずは、危険物丙・乙種試験に合格！

1月から、正社員になった気田恭平くん。実年齢よりとても若く見られますが、27才の青年です。マルセイの仕事をするためには、危険物などの各種資格を取得しなければなりません。

昨年11月に、まずは危険物の丙種と乙種に挑戦しましたが、どちらも見事に合格！すでに資格を活かした仕事を始めています。

「はい！これが今年の資格取得試験の日程。5月はハードですよ〜^^」と、先日ばわふるさんから受験のスケジュール表を手渡されていた気田くん。すでにホテルも予約済み。あとは勉強して試験を受けるだけです。各種試験日程が立て込んでいます。ということで、当社で最年少の気田くん、次の試験に向けて頑張ってください！





小さくて、あったかい場所、みつけ！

大切に続けられてきた絵本の読み聞かせ

# おはなしサークルかくれんぼ



「おはなしサークルかくれんぼ」さんは、子どもたちに絵本などの読み聞かせを続けているサークルです。お母さんたちによって引き継がれて、この活動は20年以上続けられてきました。読み聞かせの場所「おはなしかい」におじゃましてみると、そこにはキラキラ輝く子どもたちの瞳がいっぱいでした！どうぞ、足を運んでみてください。おはなしの世界への扉が開かれているその場所は、ころがったかくなる所です。

「かくれんぼ」さんの活動日は毎週木曜日。堺町集落センター、堺町児童館をはじめ、浦河小学校、東部小学校、浦河図書館を会場に継続されてきました。（残念ながら堺町小学校では、現在は開かれていません。）20年以上も続けられている読み聞かせの会ですが、今では大きくなったわが家の子どもたちと同じように、たくさんの子どものために違いありません。

長年にわたって代表を務めてきた三浦禎子さんにお会いしました。友人でもある三浦さんですが、「発足？何年前だったかなあ」と、いかにもそんなことには興味なさげ。いえ、興味を持っていませんでした。（笑）

「絵本、紙芝居などの読み聞かせを通して、子どもたちに本の楽しさ、興味、豊かな気持ちをもってもらえることを願いつつ、楽しみながら活動する。」というサークルの活動方針を守りながら、目の前の子どもたちとの時間を大切にして絵本の読み聞かせを続けて来ました。その結果、20年以上の時間が過ぎていた。多分、三浦さんにとつてはそれだけのことで、何年続けてきたなんて関係なく、ただただ絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちと向かい合うことが楽しかったのではありません。もちろん、今も！



## 読み聞かせてすくったのしー！

堺町集落センターへ出かけ、「かくれんぼ」さんの「おはなしかい」に参加しました。小さな子どもたちの横で、絵本と紙芝居の読み聞かせを聞きましたが、すごく楽しかった。



あつという間に30分が過ぎてしまいました。何だかホッとして、楽しくて、もつと読んでもらいたいなあと思ってたほどです。短いけれど、豊かで贅沢な時間でした。

このころ、人と直接出会うことはやっぱり大切だと思ふことがたくさんありました。先ずは会うこと、現場に足を運ぶこと、からしか見えないことも多いと思いました。子どもたちの笑顔と、いきいきと活動している女性たちに出会えて本当に良かったです。

最近新しくスタートさせたばかりだという、東町ふれあい会館での「おはなしかい」にも行ってみました。ここで学童保育を担当している先生が、「まだ、2回目です。これから作っていくところですよ。」と教えてくれましたが、これからは楽しみですね。



この日が2回目。東町ふれあい会館の「おはなしかい」

この日、「ねこのピート」という絵本を読んでいると、読み手のリズムに合わせて子どもたちが一緒に歌いだしました！少しだけ先走る子も、遅れてリズムを合わせる子もみんな、この絵本の世界に入り込んで歌っていました。もちろん、私も、心の中で歌いました。それくらい楽しかった。「すごいなあ」と思いました。絵本もすてきだけど、読み手もすごいし、「おはなしかい」という場がすごい！ほんと、楽しかった。あまりに楽しかったので、後日、「六畳書房」で見かけた「ねこのピート」を買っちゃいました。

## 大切にしたい場所を 楽しみながら続けた活動

家と仕事場（あるいは学校）の他に大切にしたい場所を、サードプレイス（第3の場所）といいます。「かくれんぼ」さんが続けてきた読み聞かせの場所は、子どもたちにとつてのサードプレイスではないでしょうか。多様なサードプレイスを持つている町で、心豊かで暮らしやすい町だと思えます。誰かにとつて大切な場所を淡々と守り続けている人がいるっていいな。「かくれんぼ」さんのこともそう思いました。

少ない人数になっても読み聞かせを続けてきた「かくれんぼ」の活動は、メンバーが3人だった頃もあつたそうです。最近では、「わたしでも、なにか子どもたちの役にたてないだろうか」と新たな仲間が加わりました。子育て現役中のお母さんで、興味のある方はいつでも大歓迎のこと！読み聞かせを楽しみながら、子育ても楽しんでほしいなあ。

マックス

### 「おはなしかい」

- 堺町集落センター  
（夏休み・冬休みはお休み）  
毎週木曜日  
午後3:30～4:00
- 堺町児童館  
第3木曜日  
午後3:30～4:00  
お待ちしております ♥

# 札幌の「本郷商店街」で 浦河産品のPR販売をしてきました！！

浦河町地域おこし協力隊 加藤エミ



2月21日、札幌の本郷商店街で行われた「真冬の街ぶらあつたかフェス」に参加して来ました。浦河のおいしいものをどっさり持つてのPR販売です。



今回のイベントに誘ってくださったのは、本郷商店街に『帽子と雑貨販売・修理 Dons』というお店を構える宇山誠治さん。2月にテレワーク事業で浦河に一週間滞在してくださり、今後浦河と本郷商店街の繋がりを持とう！と声をかけていただきました。ご協力いただいて用意したのは、柵山水産さんの珍珠や昆布、川潟商店さんの干物、マイクソーセージさんのベーコンやソーセージ、藤田農園さんのトマトジュース。そして、六畳書房の「馬のおしりしおり」も荷物の中へ。

前日に準備をしていると、おもしろそうだから連れてつて！と友人の江刺尚美さんが手伝ってくれることになり心強い相棒をゲット。

会場では、元役場職員で今は札幌に住んでいる樋口有紀さんも駆けつけてくださり、慣れた手つきでディスプレイを手伝ってくれました。ありがとうございました！

あれこれ並ぶおいしそうな商品に、お客さまは興味津々で試食も含め大人気！浦河にゆかりのある方や、「知り合いが住んでいるよ！」という方など、たくさん声をかけてくださり、にぎやかな浦河ブースでした。浦河のどんな商品を紹介するとよろこんで買っていたのか、今回の経験を活かした次回に活かしたいと思いました。

開催時間中、わたしたちもちやっかり？出店されてるお店のコーヒードで一息ついたり、Donsさんの帽子を見たりとショッピングも楽しんできました。『あつたかフェス』という名前の通り、今後に繋がるあたたかい交流が生まれたイベントでした。



先月ご紹介した乗馬療育のスペシャリストの江刺尚美さん(左)と、「浦河町役場札幌支部」と笑いながら自称している樋口有紀さん(旧姓・大宮さん・右)。樋口さんは、役場職員時代に水産商工観光課で手掛けた仕事の応援などにも、いつも手弁当で現場に駆け付けていらっしゃいます。

## うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会 地域デザインカフェ Vol.27

### 「あの日見あげたキルギスの空は、浦河へと続いていた」

青年海外協力隊経験者 五十嵐大介さん・早矢加さんご夫妻

3月12日(木) 東町ふれあい会館 19:00~21:00 参加費500円



「キルギス」という、普段はなかなか名前を聞くことがない国の話に興味を持って集まった参加者は30名以上！町内はもちろん、テレワークプログラム参加者の方やお隣の様似町からもご参加いただきました。



キルギスの伝統衣装を身に着けた五十嵐ご夫妻から、「早矢加さんが浦河町地域おこし協力隊として着任した1月から、浦河に移住。」キルギス国歌の紹介からスタートして、食や生活、自然や文化などを写真を交えてお話してくれました。

キルギス共和国は中央アジアに位置し平均標高が2750メートルの山岳国家。世界第2位の透明度を誇るイシクル湖などの豊かな自然に囲まれています。普段見ることのない異文化に接し、参加者からはたくさん質問が飛びました。青年海外協力隊員としての活動期間中は村落部の家庭でホームステイしていたお二人。キルギスの人々の生活に直に触れることで、人生の価値観が大きく変わったといいます。

村落生活普及支援員として現地で特産品開発をする団体の立ち上げを行っていた早矢加さんは、「金銭ではない価値」の大切さに気付いたそうです。青年海外協力隊になる前は東京の企業で働いていた早矢加さん。企業でのキャリアアップ、そして更に多くの収入をと考えていましたが、キルギスのホームステイ先の家族から、「独りで暮らしていて、なんのために働いているんだ？」と問われたといいます。お金ではない家族と共に過ごすことなどの豊かさに気づかされたそうです。

農業支援員として活動していた大介さんも、キルギスで「わかりやすい生活」をしたいと考えたといます。畜産が専門の大介さん。日本では「肉」として並ぶ家畜が誰にどのように育てられたのかを、なかなか知ることができません。キルギスでは各家庭で食べる羊や鶏が、目の届く範囲で飼われています。

お二人の価値の転換点に共通するのは「家庭」だと思いました。キルギスから帰国されてから結婚されたお二人。浦河への移住も、キルギスで発見した豊かさのある家庭をここで築きたいと思ったことが大きな理由です。ゆくゆくは自給自足を基盤にした暮らしをと、そのための準備を始めている五十嵐さんご夫妻。そういった新しい豊かさを浦河でぜひ実現して欲しいと思います。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会  
村下知宏

# 『川と河(詩集バルセロナより)』

飯島耕一 著 (1930年~2013年) 思潮社発行

最近読んだ本の中より…



「詩」くらいわたしたちの日常生活と縁遠いと思われているものも、そうはありません。無くて困らないものの筆頭が「詩」です。正直わたしも詩集なんてほとんど持っていませんし、読むことも滅多にありません。それでも、こうやって生きていますから詩なんか無くては生きていけないのはほんとうのことです。けれど・・

でも、「歌」はどうですか。もし世の中に歌がなかったら、毎日が味気ないなあとか、歌がなければ生きていけないと思う人はけっこういるのではないのでしょうか。歌謡曲であれ演歌であれフォークソングであれ、歌の一節に泣いたとか、歌の言葉に支えられたという人は、たくさんいるはずですよ。わたしもそうです。吉田拓郎とか友部正人とかもう40年も聴いているわけですが、もちろん曲(メロディー)も大事なんですけどやっぱり歌は言葉だと思います。言葉はときに人を生かすというのもほんとうなんだと思います。

わたしたちは歌のように詩になじみがないだけで、ほんとうは一級の詩人がつくった詩には歌の言葉と同じかそれ以上の、生身の人間に影響をあたえる力があります。ご紹介するのは、私がそう思う詩のひとつです。

飯島耕一のこの詩、実は若い頃に知りましたが印象に残りませんでした。四〇才を過ぎたあるとき読んで、打ちのめされました。

これ以上、じぶんは何を言うことがあるだろうと思いました。小さなことにクヨクヨし、愚痴をこぼし、うまくいかないのは誰かのせいにして、いつも言い訳を考えている。そんな俺に無いものはこれなんだよ、と心底思いました。以来十数年が経ち、久しぶりにこの詩を読みましたが、笑いが出るほど俺は変わってないな、と思いました。そしてほんとうに良い詩だなとあらためて思いました。読んだあと、気持ちが晴れ晴れとしました。再読してよかったです。

社長

きみのみじめさは  
内部に 大河をもっていない  
ということに  
尽きる。

言えることは、  
きみのみじめさは  
内部に 大河をもっていない  
ということだ。

この夏は一度だけ

川を見た

大泉から 池袋へ行かずに  
西武秩父行きに乗った  
まだ午前なので

一つの車両に

三人くらいしかない

窓からの風に

この夏 ただ一度  
の涼しさを 味わった

山あいの川が 見えはじめた  
どこまでも 川はあった  
自分のため だけに 流れている

ほんものの 川だった  
川は この夏 見たもので  
いちばん 立派な 存在(もの)だった。

その川のことを

ときおり 思い出す

このごろ 川が

気になる

内部に 川をもっている  
ように 人に会わない  
ように 大河を持っている  
ような 人を見ずして久しい。

「川と河」飯島耕一 より抜粋



## 3月も素晴らしい人たちに出会えました

マックス



3月7日・8日開催  
札幌市中央区EDITにて

3月8日(日)、札幌で開かれていた9回目の「いのちをつなぐチャリティマルシェ 2015春〜微力だけど、無力じゃない」の会場に足を運んで来ました。被災地企業の物販とトークイベントを継続して行っている東日本大震災の復興支援事業です。支援する道内の農家、料理人の方々の売り上げはすべて寄付となります。一人ひとりの力は小さくても、それぞれのできることを形にして、やれることを続けている若い人たちの熱気を肌で感じて来ました。



「向日葵(ひまわり)のかっちゃん」は西川さんの自伝小説です

3月9日(月)、総合文化会館での『西川司氏 講演会』へ。小学2年生から支援学級に通うことになった「かっちゃん」こと西川さん。一人の先生との出会いが人生を大きく変えました。「わからないことは、恥ずかしいことじゃない」。「たった一人、信じてくれる人さえいればいい」。ご本人から直接、感動の実話を聞かせていただきました。これから本を読ませてもらって、もう一度ジーンとしたい♡



トマト味噌の残ったタレは、冷凍しておけるそうです。でも、パンにつけて一緒にたべたら美味しかったので、みーんな食べちゃいました〜。



菜ばなを添えてくれました。彩りがきれいですね。

## ガスを使っておいしくクッキング



# 鯖のトマト味噌煮

『日高王国』の料理教室が大変好評だったそうです。札幌からお招きした講師チムチムさんの紹介者である地域おこし協力隊の加藤エミさんに、同じ料理を作ってもらいました。簡単で美味しいオリジナルレシピですよ♪



### ●材料(5人前)

- 鯖フィーレ 2.5枚
- 生姜 50g
- 味噌 200g
- トマト缶 1/2缶
- 砂糖
- 塩



この日は、鯖フィーレが手に入らなかったで、鯖を身おろして使いましたー。

フライパンひとつで、すっごくおいしくできますよ〜ぜひ、作ってみてください！



### ●作り方 (チムチムさんの日高王国料理教室用レシピより)

- 1、鯖に飾り包丁を入れ、生姜を入れた水に漬け込む(半日以上)
- 2、味噌とトマトと砂糖を漬け込んだ水で溶かし、液を作る。
- 3、フライパンに液と鯖を入れて、中火でフライパンの内側に小さな気泡が立ってきたら、弱火にして10分から15分フタをする。  
(火を入れ過ぎると固くなるので、身が反ってきたら火を止める)
- 4、別の容器にすべてを移し、できれば一晩冷やして味をしみ込ませる。再度温めて盛りつけたら、でき上がり！



「発酵食品とトマトは合うから、チーズと和える感覚でどうぞ！」って、チムチムさん、本当ですね！

## ★★★が続いていますが、ほんと、美味しかった〜！



“鯖のトマト味噌煮”の他に、“野菜たっぷり鶏のミルクシチュー味噌仕立て”も作ってくれたエミちゃん。ありがとう♥ この日は、ユートラインの村下社長との打ち合わせがあった地域おこし協力隊の面々も次々に集合。美味しいおかずを囲んで賑やかなランチタイムになりました。



少し遅れて試食の中川さん。うれしそう〜

みんな口々に「うん！おいしい！」と絶賛。驚いたことに、今月もオール★★★★でした。チムチムさんのアドバイスでは、一晩寝かせた方がよりおいしいとのことですが出来立てもとてもおいしかったです。作り方も材料もとてもシンプルなこのレシピ、皆さんもぜひお試しください。

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高得点 ★3個)
協力隊中川さん 協力隊武藤さん (3.0)	★★★★ 野菜たっぷりがうれしいです。 トマトと合いますね〜
村下社長 (3.0)	★★★★ トマトと味噌って、こんなに合うんですね。
社長 (3.0)	★★★★ このところ、毎月星3つつですごいね！
マックス (3.0)	★★★★ このタレ、パンにつけて食べてもおいしい！
ばわふる (3.0)	★★★★ サバが美味しいね。
キョウちゃん (3.0)	★★★★ おいしいですね。
協力隊エミちゃん (3.0)	★★★★ レシピに忠実に作れて良かったです^^



民泊先のお母さんたちを対象に開催された料理講習会。中村さんも参加者の皆さんも大喜びだったそうです。

浦河・様似・えりもの3町合同で取り組まれている『日高王国』。学生たちが民泊しながら、馬の世話や農業・漁業の作業体験をして地域の人や自然に触れ合う事業です。協力隊加藤エミさんの紹介で、札幌から「Free Dining Food チムチム」の中村正敬さんを講師に招き開催された日高王国の料理講習会レシピを、ご厚意によりご紹介させて頂きました。美味しかった〜！

7. このところずーっと星3つが続いているけど、誰が星を下げてしまうのか！う〜ん…。そうだ、来月は社長の出番にします！！

# 社長のちよつと長いコラム

## 「ある愛の詩」

近年、二十代や三十代の若者たちとずいぶん知り合いになることができました。話しているとき楽しいことが多いですし、考え方や物事にとり組む姿勢に感銘を受けることもしばしばです。自分の若いころのことを考えると、もっといい加減だったなあと思わずにはいられません。今の若者がしつかりしているのはもつともな話で、わたしの若いころのように世の中が寛容ではありませんから、しつかりせざるを得ないのは当然です。未熟な若者の成長を見守る大人がごく当たり前にいた昭和世代は、しあわせでした。

わたしが会って話をするのを楽しみにしている青年のひとりに、\*\*氏がいます。彼は、この地方では力のある会社の後継者で、まだ三十才をすこし過ぎたばかりです。ここ数年、会社を良くしようと思ひまゝなとりくみに積極的にチャレンジしていて、その成果が現れてきているのがよくわかります。きつと仕事が楽しいことでしょう。

いったん彼はこんなことを話してくれました。兄弟はいたが姉妹ばかりで、男は自分しかいません。だから小さいときから家業を継ぐことに決まっていた。色々とやりたいことも心に浮かぶだろうが、お前のやることは家業を継ぐことだ」と、先代の番頭さんに



言い含められて育ったので、そう思ってた大人になりました。帰ってきたときは正直、つまらなかつたです。大学は東京でしたし、中学からはずっと都会暮らしなので、故郷は退屈だった。



仕事もまったく面白くありませんでした。それがいつからか面白くなりました。いまは会社を良くしていくことが楽しくてしようがありません。

嫌だった仕事が多くなったのは何故なのか、訊いてみました。彼はこう言いました。「僕、社員のことを好きになつたんです。社員のみんなに良くなつてもらいたいから、必然として会社も良くなりたい。むしろ、社員が良くなれば会社も良くなつていくと思うようになったといひます。待遇面はむろんのことですが、「良くなる」という表現に、良い人生を送つてほしいんです、というニヤンスが含まれていてわたしは感心させられました。

先日、宴席で\*\*氏と一緒に久し振りに話をする機会を得ました。相変わらずコツコツと社内改革にとり組んでいる話を聞かせてもらひ、ふとこんな質問をしてみました。あなたの優秀さと今の会社の立場なら、あなたの指示とコントロールひとつで、もつと短期間に物事を進められると思うけれど、そうしようとは思ひませんか？

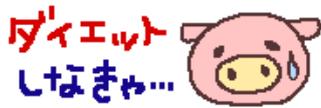
彼はこう答えました。たしかにそうかも知れませんが、それだと社員の成長の機会を奪つてしまいます。一人々々が考へて前に進むのを手伝うのが楽しいんです。「僕、社員のこと愛してゐるんですよ。」

いい言葉聞かせてもらったなあ、と思ひました。いい経営者であることに年齢は関係ありません。そのあとに\*\*氏はこうつぶやきました。「だから、社員も僕のこと愛してほしいんだけどなあ...。」

# さのぱわふる日記



でもさ〜、今日もまたこんなに美味しいお菓子をもらっちゃったしね〜...



お客様から嬉しいお手紙が届きました。中には、ぱわふる日記の応援とダイエットの励まし、アドバイスが書かれていました。これは、はちまきを締めなおして取り組まなくてはと奮起しましたよ。決算まで半年、一ヶ月に一キロずつ落とさなくてはなりません。たくさんさんの悪魔からの誘惑や自分の意思の弱さに打ち勝つて目標達成します。最近、回りで、着々とダイエットに成功している人の話が聞こえてきて、マックスさんと二人で成功者の話しを聞きたびに『これから、これから』とのんきな私たち。マックスさんは、ちよつと体操すると『私、締まつてきてるからさ〜』と得意げに話のですが、2〜3日後には『止めるとすぐ戻るんだよね〜』と開き直り。あくこの人に同調してはいけなひ。このままでは目標達成は無理！悪いけどマックスさん、置いて行きますからね。エンジンがかかった私は、飛ばしますよ。と週末に暴飲暴食をし、反省している私の意思表明でした。



**発行 株式会社マルセイ**  
灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業  
冬季期間 (11月~3月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 (8:30~6:00土曜3:00)



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部  
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com  
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください  
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3  
TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789